

施策 14-3 特別支援教育の推進

(主担当部局：教育委員会事務局)

施策の目標

(めざす姿)

インクルーシブ教育システムの理念をふまえ、特別な支援を必要とする子どもたちが、それぞれの教育的ニーズに応じた学びの場において、安全に安心して早期からの一貫した指導・支援を受けることで、持てる力や可能性を伸ばし、将来の自立と社会参画のために必要な力を身につけています。また、障がいの有無に関わらず、子どもたちが互いに交流することで、理解し、尊重しあいながら生きていく態度を身につけています。

1. 基本事業の取組状況

基本事業名

・令和5年度の主な取組

① 一人ひとりに応じた切れ目のない教育の推進

- ・小中学校等でのパーソナルファイルの活用や、中学校から高校への支援情報の引継ぎを進めるとともに、高校においては発達障がい支援員による巡回相談を実施しています。
- ・交流および共同学習を進めるとともに、副次的な籍については、先行事例の成果と課題をふまえたうえで、さらに他の地域にも広げられるよう市町と協議をしています。
- ・伊勢まなび高校、みえ夢学園高校および北星高校の通級による指導において、一人ひとりに応じた指導や支援を行っています。
- ・特別な支援を必要とする子どもたちはどの学校にも在籍していることから、通級による指導を担当する教員等の専門性の向上を図る研修を実施しています。

② 特別支援学校における自立と社会参画に向けた教育の推進

- ・特別支援学校高等部生徒の進路希望の実現と、地域生活への円滑な移行をめざして、計画的・組織的なキャリア教育と職場開拓を進めています。テレワーク支援員を配置し、ICTを活用した在宅就労など、新しい働き方や技能に対応した就労先の開拓や就職支援を進めています。
- ・医療的ケアを実施する教職員と看護師免許を有する職員が必要な知識や技能を身につける研修を実施するとともに、指導医や指導看護師を学校に派遣しています。また、登校時に看護師が福祉車両等に同乗し、痰吸引等の医療的ケアを行う通学支援を試行的に実施しています。
- ・県立特別支援学校ポッチャ大会をオンラインで開催しました。大会をとおしてスポーツに親しみ、他校の生徒と競技をすることで交流を深めました。
- ・盲学校および聾学校の新校舎建築のための木材調達や埋蔵文化財調査等を進めるとともに、寄宿舍建築工事の年度内完了に向けて取り組んでいます。松阪あゆみ特別支援学校については、校舎増築のための基本設計を行っています。
- ・新型コロナ対策として、特別支援学校の子どもたちが安全で安心して通学できるよう、スクールバスを増便しています。

2. KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの項目							関連する基本事業	
令和3年度	4年度	5年度		6年度	7年度	8年度	5年度 の評価	
現状値	目標値 実績値	目標値 実績値	目標達成 状況	目標値 実績値	目標値 実績値	目標値 実績値		
特別支援学校高等部の一般企業就職希望者の就職率							①②	
—	100%	100%	—	100%	—	100%	—	
100%	100%	—	—	—	—	—	—	
特別支援学校における交流および共同学習の実施件数							②	
—	600回	700回	—	800回	—	1,000回	—	
524回	756回	—	—	—	—	—	—	
通級指導教室による指導担当教職員の専門性向上を図る年間を通じた研修を受講した教職員の数(累計)							①	
—	30人	60人	—	90人	—	150人	—	
0人	50人	—	—	—	—	—	—	

3. 令和6年度の課題と取組方向

基本事業名

・令和6年度以降に残された課題と対応

① 一人ひとりに応じた切れ目のない教育の推進

- ・特別な支援を必要とする児童生徒が適切な指導・支援を受けることができるよう、小中学校等でパーソナルファイルの活用をさらに進めるとともに、高校卒業後の進路先へも支援情報の円滑な引継ぎが行われるよう、同ファイルの活用をさらに進めます。また、教職員が適切な指導・支援ができるよう、引き続き高校での発達障がい支援員による巡回相談の取組を進めます。
- ・障がいの有無に関わらず、児童生徒が共に学ぶことができるよう、交流および共同学習を進めるとともに、副次的な籍については、市町と協議し、導入市町を拡大します。
- ・定時制3校(伊勢まなび高校、みえ夢学園高校、北星高校)に加えて、全日制課程の高校においても通級による指導を必要とする生徒が在籍していることから、実施校の拡充を図ります。
- ・特別な支援を必要とする子どもたちはどの学校にも在籍しており、特別支援教育に係る教職員の専門性向上を図る必要があることから、引き続き通級による指導を担当する教職員等のニーズに応じた研修を実施します。

② 特別支援学校における自立と社会参画に向けた教育の推進

- ・特別支援学校高等部生徒の進路希望を実現し、地域生活へ円滑に移行できるよう、計画的・組織的なキャリア教育と職場開拓を進めます。ICTを活用した在宅就労など、新しい働き方や技能に対応した就労先の開拓や就職支援を進めるため、引き続きテレワーク支援員を配置します。
- ・安全で安心な医療的ケアを実施することができるよう、担当する教職員の専門性向上を図る研修を実施するとともに、指導医や指導看護師を学校に派遣します。また、通学に係る保護者の負担を軽減できるよう、登校時に看護師が福祉車両等に同乗して、痰吸引等の医療的ケアを行う通学支援を引き続き実施します。
- ・特別支援学校の児童生徒が、一人ひとりの発達段階や障がいの状況、体力に応じて卒業後もスポーツに親しむことができるよう、障がい者スポーツの取組を進めます。

- ・特別支援学校の施設について、計画的な老朽化対策および施設の狭隘化等に対応するための整備を進めます。盲学校および聾学校は、老朽化対策・安全対策として城山特別支援学校の隣地へ移転するため、新校舎建築に向けて、予定敷地の埋蔵文化財調査等とともに、木材調達および建築工事を進めます。また、松阪あゆみ特別支援学校については、教室不足の解消を図るとともに、肢体不自由のある子どもたちの新たな就学先とするため、校舎増築のための実施設計を行います。
- ・特別支援学校の子どもたちが安全で安心して通学できるよう、老朽化したスクールバスを更新します。

4. 主な事業

≪（１）一人ひとりに応じた切れ目のない教育の推進≫

①早期からの一貫した教育支援体制整備事業

（第10款 教育費 第1項 教育総務費 4 教育指導費）

予算額：(R5) 21,280千円 → (R6) 21,167千円

事業概要：特別な支援を必要とする子どもが、一人ひとりの教育的ニーズに基づき最も適切な場で学べるよう、市町と連携した就学支援を進めるとともに、パーソナルファイル等を活用した支援情報の引継ぎを行うなど、切れ目のない支援を進めます。高校において、発達障がいのある生徒への支援や保護者からの相談への対応、教職員への指導・助言を行う発達障がい支援員を配置します。発達障がい支援に係る専門性向上のため、通級による指導を担当する教職員への研修を実施します。特別支援学校においては、通訳・翻訳を行う外国人児童生徒支援員を配置します。

≪（２）特別支援学校における自立と社会参画に向けた教育の推進≫

①特別支援学校就労推進事業

（第10款 教育費 第1項 教育総務費 4 教育指導費）

予算額：(R5) 6,398千円 → (R6) 6,288千円

事業概要：特別支援学校において計画的・組織的なキャリア教育を推進するとともに、キャリア教育サポーターを活用した職場開拓や、企業等と連携した職場実習等を実施し、高等部生徒の進路希望の実現を図ります。ICTを活用した在宅就労に向けた就職支援を行うテレワーク支援員を配置し、実習先や就職先の開拓を行います。

②特別支援学校メディカル・サポート事業

（第10款 教育費 第1項 教育総務費 4 教育指導費）

予算額：(R5) 23,475千円 → (R6) 27,852千円

事業概要：医療的ケアを必要とする子どもが身体的に安定した状態で教育活動に参加できるように医療的ケアを実施するとともに、研修の実施による専門性の向上や、指導医等の指導・助言による校内のサポート体制の充実を図ります。通学に係る保護者の負担軽減のため、登校時に看護師が福祉車両等に同乗し、痰吸引等の医療的ケアを行います。

③特別支援学校施設建築費

(第10款 教育費 第5項 特別支援学校費 1 特別支援学校費)

予算額:(R5) 1,112,232千円 → (R6) 569,190千円

(1,182,932千円 → 872,342千円 ※2月補正含みベース)

事業概要:盲学校および聾学校について、老朽化対策・安全対策として城山特別支援学校の隣地へ移転するため、校舎建築工事および共同調理場建築工事に取り組むとともに、建築に必要な木材調達や建設予定地の埋蔵文化財調査等を行います。松阪あゆみ特別支援学校について、教室不足の解消を図るとともに、肢体不自由のある子どもたちの新たな就学先とするため、校舎増築の実施設計を行います。

④特別支援学校スクールバス整備事業

(第10款 教育費 第5項 特別支援学校費 1 特別支援学校費)

予算額:(R5) 102,274千円 → (R6) 71,620千円

事業概要:老朽化に伴う車両更新として、自動車NOx・PM法に適合するスクールバスを購入します。